



# サイジナル

月刊  
28-9・10  
第429号

日本サイ科学会 平成 28 年 9 月 1 日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会  
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

<b>東 北</b> 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサノビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908・FAX 022 (274) 0097	<b>中 部</b> 〒466-0051 名古屋市昭和区 御器所3-4-21 眞 野 博 貴 ☎・FAX 052 (871) 9060	<b>北 陸</b> 〒920-0864 金沢市高岡町12-45-1F ホリスティック健康科学研究所内 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 6634	<b>関 西</b> 〒596-0807 大阪府岸和田市 東ヶ丘町808-153 河 野 明 夫 ☎ 072 (445) 7737・FAX 072 (445) 7796	<b>九 州</b> 〒851-2122 長崎県西彼杵郡 長与町本川内16-6 森 安 政 仁 ☎ 095 (883) 6048・FAX 095 (883) 6159
---------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

## 九月本部例会のお知らせ

### 7.8 Hzのスローα波の驚異

講師 志賀一雅氏

(脳力開発研究所)

脳波のα波は8〜12Hzと幅が広いことから、これまでは10Hzを中心としたミッドα波がリラックスした集中状態として着目し、スポーツや創作活動、学習や仕事に活用してきました。

ところがESPやPKなど科学に馴染まない現象は8Hzのスローα波が主体のように思われます。より詳細に調べると7.8Hzであり、シューマン共鳴と同期していると思われるのです。

具体的にはタイの洞窟で物質化現象を起こす司祭のアチャンがマントラ瞑想をしているときは左右の脳波が7.8Hzで12秒間もコヒーレント状態になり、少林寺気功法最高師範の秦西平氏が気功治療しているとき、クライアントと脳波が7.8Hzで4〜6秒間コヒーレント状態になります。

自動書記やチャネリング、ヒー

リングや催眠療法など科学に馴染まない現象が、バンアレン帯のプラズマ振動7.8Hzによる、空間の揺らぎとの共鳴に関わりがあるように思われるので、いくつかの具体例を紹介して、皆様と論議したいと思います。

※志賀一雅氏はご自分で開発された脳波測定器で永年、多くのスポーツ選手、芸術家、瞑想家、能力者の脳波測定をされ、その独自の分析により、多くの発見をされ、論文も書かれております。また多くの有名な企業のスポーツチームのメンタルトレーニングにも貢献されております。タイの洞窟での物質化現象につきましては、昨年2月本部例会におけるスワミ氏の御講演でも紹介されましたが、志賀氏は複数回参加され、司祭の脳波測定もされ、分析の詳しい解説もされるでしょう。会員の皆様はご友人、知人をお誘いして是非ご参加ください。

◎志賀一雅氏のプロフィール  
1937年東京生まれ。1961年電気通信大学卒業、松下電器産業入社、東京大学物性研究所にて

## 今月号の記事

- ◎九月本部例会のお知らせ
- ◎御寄付御礼
- ◎御寄付のお願い
- ◎関西サイ科学会九月十月研究集会のお知らせ
- ◎中部サイ科学会九月定例会予告
- ◎九州サイ科学会九月定例会予告
- ★創立40周年記念大会プログラム
- ◎第5回スピリチュアル研究分科会のお知らせ
- ◎六月通常総会報告
- ◎平成27年4月本部例会報告1
- ◎第四〇六回関西サイ科学会報告
- ◎第四〇七回関西サイ科学会報告
- ◎サトルエネルギー学会秋の大会
- ◎オーブ出現の素粒子的ならびに変性意識的な状況
- ◎米ツブ療法と健康法

半導体物性を研究。1965年松下技研にて半導体集積回路、LSIの開発。1976年松下技研主任研究員、東京大学工学部研究員を兼務しアルファ脳波の研究。1983年松下技研を退社、株式会社脳力開発研究所を設立 東海大学講師を兼務。1998年徳島大学工学部講師、日本理科学検定協

会理事長、日本数学検定協会理事。  
現在(株)脳力開発研究所相談役、  
日本バイオフィードバック学会会  
員、日本医療催眠学会顧問、日本  
サイ科学会理事

日時 平成28年9月10日(土)  
午後1時30分～4時30分  
会場 北とびあ9階902会議室  
交通 JR京浜東北線王子駅下車  
徒歩2分、ホーム最北端(赤  
羽寄り)の階段を下り改札  
口を出て見える高層ビル

会費 会員二千円 一般三千円  
学生 一千円

「心を科学する博物館」と  
一般の御寄付御礼  
(8/10受領分まで)

金五万円也 匿名様  
金一万円也 小林 信正 様

御寄付のお願い

日本サイ科学会は主として会員

の皆様からの会費で活動を続けて  
おりますが、皆様からの御寄付に  
も大変助けられております。

会員の皆様の会を支えるお気持  
ちとして、金額は任意で構いませ  
んのので、郵便局にある郵便振替用  
紙に、  
番号001000・2・15344  
加入者名 日本サイ科学会  
通信欄に「一般の御寄付」として  
お振り込み戴ければ幸いです。

関西日本サイ科学会  
九月研究集会のお知らせ

占星術から見た日本と世界の  
これからの一年

講師 伊藤 一夫氏  
(マドモアゼル・愛)

日時 平成28年9月17日(土)  
午後1時30分～5時  
会場 大阪科学技術センター  
七〇一号室  
交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車  
北へ徒歩5分 鞆公園内

会費 会員二千円 一般三千円  
学生 一千円  
問合せ 072・445・7737

関西日本サイ科学会  
十月研究集会のお知らせ

炭が夢の大地を蘇らせ地球を  
救う

講師 岩熊 裕明氏

日時 平成28年10月15日(土)  
午後1時30分～5時  
会場 大阪科学技術センター  
六〇五号室  
交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車  
北へ徒歩5分 鞆公園内

会費 会員二千円 一般三千円  
学生 一千円  
問合せ 072・445・7737

中部日本サイ科学会  
九月定例会のお知らせ

会員数名の研究・体験発表

日時 平成28年9月10日(土)  
午後1時30分～5時30分  
会場 博愛療院(ゆづいん)ホール  
名古屋市昭和区御器所3・4・21  
交通 地下鉄鶴舞線荒畑駅下車  
3番出口から徒歩1分  
会費 一〇〇〇円(会員・一般)  
※会員以外の方の参加も大歓迎  
問合せ 052・871・9060

九州日本サイ科学会  
九月研究集会のお知らせ

私の世界

講師 藤本 満正氏

日時 平成28年9月11日(日)  
午後1時～4時  
会場 伊勢宮神社内楠照殿  
長崎市伊勢町2・14  
(095・823・2665)  
交通 諏訪神社前徒歩5分  
会費 二〇〇〇円  
問合せ 095・883・6048  
※会員以外の方の参加も大歓迎

# ★日本サイ科学会 創立40周年記念大会★

(特別協賛：サトルエネルギー学会)

(日時) 2016年10月16日(日)10:00～16:50

(会場) 北とぴあ7階第2研修室

(交通) JR京浜東北線王子駅下車徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

(会費) 会員 ¥2,000 一般 ¥3,000 学生 ¥1,000

※サトルエネルギー学会会員は会員会費となります。

## <プログラム> (敬称略)

9:30 開場

10:00～10:10 開会のご挨拶 阿久津 淳 大会委員長

### ◎会員の研究発表(6名)(20分発表、5分質疑応答／1人)

10:10～10:35 小林 泰樹「オリンピックメダリストの生誕時惑星配置の解析」

10:35～11:00 小澤 佳彦「タイの洞窟における物質化現象『天の扉開き』について」

11:00～11:25 浪平 博人「図形の形成する場と共時性について」

11:25～11:50 橋本 和哉「宇宙霊憑依と宇宙から届く支配エネルギー」

11:50～12:40 昼休み

12:40～13:05 山根 真「新宇宙論・量子論Ⅱ－ブラック・ホールを求めて－」

13:05～13:30 田中 義久「10次元の乗り物UFOを造ってみたい」

13:30～13:50 琴人 飛田 立史 古琴(七絃琴)演奏 - 琴曲「流水」 遙かなる宇宙の「果てへ」 ※惑星探査機ボイジャー(1977-)に搭載された「地球の音」所収の一曲。管平湖(1897-1967)再伝の弟子が演奏します。

### ◎シンポジウム テーマ「地球外知的生命：UFOと宇宙人(宇宙人サミット)」

13:50～13:55 大会委員長 阿久津 淳

13:55～14:40 基調講演 Ariyana「光のあがない(Light Atonement)」

14:40～14:45 休憩

14:45～16:00 パネラー5名の発表(1人15分)氏名とタイトルは下記

16:00～16:40 パネルディスカッション「地球外知的生命と地球人」

司会進行 竹本 良

パネリスト

和場 まさみ(作家)「私の宇宙人遭遇」

上部 一馬(作家)「日本を守るUFO艦隊」

小池 了・水月 千歳ユニット「宇宙人からのメッセージ」

根本 泰行(オフィス・マサル・エモト代表)／グレッグ・サリバン(JCET I 代表)

「<水への祈りのセレモニー>のときに現れた宇宙船について」

申彦(工学博士)「ETの存在と人間思考の革新」

(資料)アインシュタイン・オッペンハイマー草稿

EU議長 ジャン・クロード・ユンケル発言

16:40～16:45 優秀研究賞 表彰式 浪平 博人 会長

16:45～16:50 閉会のご挨拶 阿久津 淳 大会委員長

17:30～19:30 懇親会(希望者：当日受付け)

## 第5回スピリチュアル研究 分科会のお知らせ

日時 平成28年11月20日(日)

午後1時30分～4時30分

会場 北とびあ9階901会議室

講師等詳細は、近日中に日本サイ  
科学会公式サイトに、掲載されま  
すので、チェック願います。

## 六月通常総会報告

日本サイ科学会

会長 浪平 博人

### ◎平成27年度本部事業報告

#### 1. 会員の現状

(平成28年5月末現在)

名誉会員	1名
維持会員	4名
正会員	183名
学生会員	24名
準会員	57名
合計	269名

#### 2. 講演会、研究集会(敬称略)

本部は10月の「第25回全国大会」  
を含み、計15回の例会・分科会を  
開催した。

#### ◎本部例会・大会

平成27年

4月11日(土) 根本 泰行「『水か  
らの伝言』と『新しい水の科学』」

5月9日(土) 水華

「君を見放したりはしない―宇宙  
神技点描画家―水華の世界」

上部 一馬

「巨大地震を1週間前につかめ」

6月7日(日) 末武 信宏

「先端アンチエイジング医療&  
超人を生む自律神経の開発」

7月11日(土) 飛沢 誠一

「見えない世界の情報を如何に活  
用するか?」

9月12日(土) 山田 欽子「あなた  
の人生が楽しくなるインド占星術」

10月11日(日) 第25回全国大会

テーマ「あの世と多次元世界」

11月14日(土) 坪井 香譲

「野性と霊性・ヒトの原点『直立  
二足歩行』から問う」

12月12日(土) 忘年会も兼ねた  
会員の体験意見発表と討論の会

平成28年

1月9日(土) 佐々木 茂美、  
佐藤 禎花、苗 鉄軍

「オーブ研究の現状報告」  
2月13日(土) 正木 晃  
「靈魂観の現在」

#### ◎分科会

●宇宙生命研究分科会

2015年

7月26日(日) 第25回「第9回  
UFO&オーブシンポジウム」

12月26日(土) 第26回

「第3回異能科学会議」

2016年

3月27日(日) 第27回「第8回  
ヒポクラテス・シンポジウム」

●スピリチュアル研究分科会

2015年

4月26日(日) 第2回スピリチュ  
アル研究分科会

11月1日(日) 第3回スピリチュ  
アル研究分科会

3. 総会 平成27年6月7日

北とびあ701会議室で開催

4. 全国理事会・評議員会

平成27年6月7日

北とびあ701会議室で開催

5. 本部理事会(第192回)第

◎活動方針として

199回)を4月、5月、7月、  
9月、11月、12月、1月、2月  
と8回開催した。

6. 出版物 「サイ科学」第37巻

第1号を発行した。

「サイジャーナル」第421号  
から第426号までを発行した。

◎平成28年度本部事業計画

10月16日(日)に創立40周年記念  
大会(シンポジウムテーマ「地球  
外知的生命・UFOと宇宙人―  
宇宙人サミット」)を開催する。

・月例会を7回(4、5、6、7、  
9、12、2月)開催する。

・宇宙生命研究分科会を3回  
(7、12、3月)開催する。

・スピリチュアル研究分科会を  
2回(4、11月)開催する。

・本部理事会、全国理事会評議員  
会を開催する。

・サイジャーナルを6回発行する。

・「サイ科学」を発行する。

・公式サイトを運営する。

・「心を科学する博物館 サイ科学  
遺産」の資料を整備する。

・その他

◎活動方針として

・刊行物に種々の分野の解説・応用や新鮮な情報を増やす。

・会の活性化を図るため、例会等でアンケートを実施、活用する。

・体験型やセミナー（ワークショップ型）の例会を開催する。

・インターネットの公式サイトやメルマガリストを活用する。

・雑誌等の告知欄やメールマガジンに行事の予告を載せていく。

・地方日本サイ科学会との連携を深める。

・地方からも講師を招く。

・理事や若手の幹事（理事候補）、評議員を増やす。

・謎、不可思議と思えるミステリー写真や映像などを募集し、展示発表する。

・その他

### ◎地方日本サイ科学会

東北日本サイ科学会

会長 佐佐木 康二

### ◎平成27年度事業報告（敬称略）

平成27年

4月11日 第200回研究会総会

\*平成26年度事業報告、平成27年度事業計画

\*「磁場×重力場を測定して霊能

・金運を上げる」佐佐木康二

5月30日 実験会（一財）福来心理学研究所と共催）「透視と念写の実験会 エントロピーを下げ

る方法を用いて」佐佐木康二

6月13日 第201回研究会

\*「いわゆるUFOとその目撃地点の御利益」佐佐木康二

8月8日 第202回研究会

\*「我になる前の存在にまかせれば得られる」佐佐木康二

10月10日 第203回研究会

\*「霊能力（サイ能力）はスカラースカラー波意識」佐佐木康二

12月12日 第204回研究会

\*「美徳がもたらす霊能と金運」佐佐木康二

平成28年

2月13日 第205回研究会

\*「上位スピリットから正しい情報を受信する」佐佐木康二

### ◎平成28年度事業計画

東北日本サイ科学会は、創始者

岡田幸生が掲げた目的、「聖人及び超能力者の先人たちが出来るだけ深く探求して、誰でも本来的

に持っているはずの超能力を万人

に成長させて人類の活動能力を本質的に高めること」を今後も目指し、次の事業を行う。

1. 定例研究会の開催

定例研究会を偶数月第2土曜日に開催する。先人や研究者の成果を学び、また各人の知恵と知識を持ち寄る。サイ科学関係の

著名人の講演会等は計画としては準備せず、機会がある折りに

考慮する。

2. 「東北日本サイ科学会研究抄録」の編集

3. 長期研究テーマの推進

サイ現象の観測量化―「スカラースカラー波カメラ」等の開発、気・意識の種類の見分け方、「念写」写真・「オーブ」画像等の分析・検

証（福来心理学研究所との共同研究）、意識純化・宇宙意識への

目覚め、地震予知、数秘術・秘

数の科学性の研究、フリー・エネルギー装置の研究、過去世・

霊性・霊能の研究、食とサイ能力の関係の研究

4. 講演会等の開催

「念写実験」等のテーマで5月、8月に実験会を開催する（福来心理学研究所と共催）

5. 会推進スタッフの充実、本部

会員・会員の勧誘

6. 「岡田文庫」（福来心理学研究所との共同事業）及びビデオ資料等の閲覧サービス・管理

中部日本サイ科学会

会長 眞野 博英

### ◎平成27年度事業報告

研究会Ⅰ

日程 平成27年9月12日（土）

会場 博愛癒院 待合室

研究会Ⅱ

日程 平成28年3月12日（土）

会場 博愛癒院 待合室

### ◎平成28年度事業計画

研究会Ⅰ

日程 平成28年9月10日（土）

会場 博愛癒院 待合室

研究会Ⅱ

日程 平成29年3月11日（土）

会場 博愛癒院 待合室

北陸日本サイ科学会

会長 佐藤 禎花

### ◎平成27年度事業報告（敬称略）

平成27年5月24日（日）

「外惑星（天王星、海王星、冥

「王星」が与える個人の運勢の大きな波と世界の動向」瀬尾泰範（才能開発研究所代表、占星学研 究家）

平成27年9月6日（日）

「『水からの伝言』と『新しい水の科学』」根本 泰行（IHM総合研究所 所長）

平成28年3月27日（日）

「水のはなし」水と若さと健康と」久保田 昌治（理学博士・日本サイ科学会理事長）

◎平成28年度事業計画

9月、11月、3月予定。（内容、詳細は未定・計画中）

関西日本サイ科学会

会長 河野 明夫

◎平成27年度事業報告（敬称略）

平成27年度は8月12月を除き、27年4月（第397回）から28年3月（第406回）の10回開催した。参加者は合計337名であった。

研究集会

平成27年

4月18日 亀井澄夫「妖怪って何？」妖怪講座一日入門」

5月16日 宮崎 貞行

「チャクラに響くコトタマバワ

ー ー 体感セミナー」

6月20日 小牧 昭一郎

「意識による鉱石の成長・サイ

をめぐるともやま話」

7月18日 梶原 和義「永遠の生命

（死は真つ赤な嘘）」

9月19日 スワミ「物質化現象

無から有は生じる」

10月17日 中島 敏樹

「水と珪素の集団リズム力」

11月21日 中野 瑞樹「EGOからECOへフルーツ2000

日物語」

平成28年

1月16日 森川 薫

「地震予知・20年間の検証」

2月20日 佐田 弘幸「運の良い人

悪い人それぞれの潜在意識はどうなっているのか」

3月19日 畑田 天真如「命をつな

ぐー ー日本の太古の智慧が地球を救うー」

◎平成28年度事業計画

平成28年度は下表のように8月

12月を除き、28年4月（第407

回）から29年3月（第416回）

の10回開催する予定である。

平成28年

4月16日 上森 三郎「秘密

NIPPONの超建国裏返史」

5月21日 坂井 洋一「本居宣長の

『古事記』解釈は誤っていた！」

6月18日 和田 高幸「ダウジング

のすべて 科学時代の活用術」

7月16日 梶原 和義「死ぬべき人

間から死なない人間へ」

9、10、11、1、2、3月予定

九州日本サイ科学会

会長 森安 政仁

◎平成27年度事業報告（敬称略）

研究集会を4回開催しました。

平成27年

4月12日（日）橋本 和哉

「医師が語る見えない世界」

6月14日（日）森安 政仁

「心の調和について③」

7月5日（日）森安 政仁

研究集会

9月13日（日）森安 政仁

研究集会

◎平成28年度事業計画

平成28年度は、下記のように3回予定しております。

平成28年

4月10日 参加者の皆様と勉強会

9月11日 参加者の皆様と勉強会

平成29年

1月29日 新年会予定

●平成27年度日本サイ科学会役員  
構成（\*印は新任または改選）

名誉会員 品川 次郎

名誉会長 佐々木 茂美

会長 浪平 博人

理事長 久保田 昌治\*

副理事長 小林 信正\*

顧問 品川 次郎\*

西條 一止\*

地方会長兼理事

東北日本サイ科学会会長

佐々木 康二\*

中部日本サイ科学会会長

眞野 博英\*

北陸日本サイ科学会会長

佐藤 禎花\*

関西サイ科学会会長、副理事長

河野 明夫\*

九州日本サイ科学会会長

森安 政仁\*

理事(常任理事を含む)

- 阿久津淳\*、大木高伸\*、大谷宗司、金子輝夫、小林泰樹、小林正典\*、小牧昭一郎\*、志賀一雅、志村則夫\*、徳永康夫、中島敏樹、鯉江勇、本間修二\*、前田知則\*、苗鉄軍、渡辺宙明、(新理事)橋本和哉\*

幹事 飯見勇\*、石川允朗、小久保孝行、吉田一美\*

評議員

- 薄葉達夫、占部浩一\*、瓜生昌代司、大西章、奥村八郎、加納愛信\*、鴨川裕司、小林隆文、佐藤ひろ子、杉立繁\*、高橋至誠、谷口五月、飛田洋子\*、三浦良江、屋敷益男\*

監事 和田守央

(1) 本部役員・理事会は会長、理事長、顧問、常任理事、幹事によって構成される。

(2) 常任理事は月1回開催される

本部理事会に出席できる理事を示す。

(3) 常任理事の選出は、理事の自己申告による。

◎基幹論文賞・功労賞表彰

基幹論文賞 千葉県 小久保秀之殿

本会は定款細則第18条により総会の議を経て 貴下の研究活動に対し基幹論文賞を贈り 感謝の意を表します

平成28年6月26日

日本サイ科学会

会長 浪平 博人

研究活動「生体センサを使ったbio-IPKの高感度測定系の開発と定量的研究」PK現象の科学的客観的測定と定量的研究に貢献した

\* \*

基幹論文賞

埼玉県 中島敏樹殿

本会は定款細則第18条により総会

の議を経て 貴下の研究活動に対し基幹論文賞を贈り 感謝の意を表します

平成28年6月26日

日本サイ科学会

会長 浪平 博人

研究活動「水と珪素と気のコロイダル電荷作用の研究」水の生命場の作用はイオン力より、むしろ電荷力でなされていることを解析考察した

\* \*

功労賞

飛田 洋子殿

あなたは日本サイ科学会会員(日本サイ科学会評議員)として 永年にわたり 研究と啓蒙活動にご尽力されました 本学会の輝かしい発展はあなたのご努力にしております よって日本サイ科学会功労賞を贈り表彰し感謝致します

平成28年6月26日

日本サイ科学会

会長 浪平 博人

〔平成27年度決算報告〕

収入			
項目	予算	項目	決算
会費	2,000,000	会費(正)	1,470,000
例会	500,000	会費(学生)	138,000
寄付	500,000	会費(準)	223,500
本・他	100,000	会費(維持)	80,000
繰越金	2,628,247	会費(賛助)	0
合計	5,728,247	入会費	58,000
		例会収入	421,500
		本会寄付	365,300
		本・他	138,320
		広告料	0
		前年度繰越金	2,628,247
		合計	5,522,867

支出		
項目	予算	決算
ジャーナル発行	600,000	646,986
会誌発行	300,000	340,200
人件費	1,530,000	1,516,000
例会会場費	120,000	189,360
講師謝礼	200,000	281,000
事務用品	120,000	133,227
郵送・配送料	50,000	55,494
通信費	80,000	71,498
会議・打合せ	80,000	113,531
交通費	40,000	41,150
事務所維持費	140,000	153,468
郵便・銀行振込料	10,000	2,662
予備(予稿集印刷代)	100,000	92,360
来期繰越金	2,358,247	1,885,931
合計	5,728,247	5,522,867

## 〔平成28年度予算〕

収入		支出	
項目	金額	項目	金額
会費	2,000,000	ジャーナル発行	600,000
例会	500,000	会誌発行	300,000
寄付	500,000	人件費	1,500,000
本・他	100,000	例会会場費	100,000
繰越金	1,885,931	講師謝礼	200,000
合計	4,985,931	事務用品	120,000
		郵送・配送料	50,000
		通信費	80,000
		会議・打合せ	80,000
		交通費	40,000
		事務所維持費	140,000
		郵便・銀行振込料	5,000
		予備	100,000
		来期繰越金	1,670,931
		合計	4,985,931

## 平成27年4月本部例会報告I

## 「水からの伝言」と「新しい水の科学」

講師 根本 泰行氏

今日は前半でIHM総合研究所の江本勝前所長の「水からの伝言」の概要とワシントン大学のジェラルド・ポラック博士の第4の水の層の発見についてお話しし、後半

ではジャック・ベンベリスト博士の研究のお話から、ノーベル賞受賞学者リュック・モンターニュ博士の研究のお話で終わりたいと思います。

私達はよく、「水の記憶」とか「水の情報記憶」という言葉を使いますが、ベンベリスト博士は「水の情報記憶」よりも「水の伝達」が大事だと書いておられます。

ポラック博士は気功師やヒーラーのヒーリングエネルギーは、体の中の水に作用するのではないかと述べておられます。ポラック博士がいつも言っているのですが、体重の6/7割が水ですが、実は水分子は小さいので、体全体の分子の個数で言いますと、99%が水分子なのです。ということは99%の水分子を無視して、残りの1%で生命が分かるか？ということになります。

株式会社IHMの故江本勝会長は、残念ながら2014年10月17日に亡くなりました。それ以降、私達スタッフは手分けしていろいろな仕事を引き継いで、世界中でメッセージを伝え続けております。

江本会長の業績としましては、(1)「波動水」を用いた「波動カ

## ウンセリング

(2)「水の結晶写真撮影法」と著書「水からの伝言」

の2つがあり、いずれも水が情報を記憶・伝達することを示唆しています。

(1)につきましては、1988年〜1990年代に、米国から初めて輸入し、販売したMRA(共鳴磁場分析器)で、クライアントのエネルギー状態を測定しました。

例えば、免疫力が落ちていると分かったときには、免疫力を高めようという情報をMRAで水に転写して、その水をクライアントに飲んでいただきます。その後MRAで波動測定して、そこが改善されたかどうかを調べます。

新しい波動測定器は、急病等で事務所にクライアントが来られないときに、通常手をのせて測定するセンサー部にご本人の写真も載せても、波動測定することができることが、経験的に分かりました。写真すらも手に入らないときには、クライアントの名前を書いた紙を載せても、波動測定できることが分かりました。

80年代から90年代にかけて、波動ブームが来まして、江本会長も10冊以上の著書を出されています。

ただ1995年のオーム真理教事件等がありまして、波動ブームも怪しげなものとなされるようになり、ブームも下火になりました。

江本会長は波動測定の中で、水に必要な情報を転写して、飲んでいただくというところを行っていたのですが、一般の人々は水は透明でそういうものが目に見えないので、「本当」にそういう情報が入っているの？というように、ときには疑われたことがあります。

そこで江本会長は見えないものを見るための方法を探し続けました。そういう時期に、雪の研究をされておられる、北海道理学部の中谷宇吉郎教授の「雪は天から送られた手紙である」という言葉に江本会長はインスピレーションを受けて、水の結晶写真を撮影することを決意しました。

中谷教授の言葉は、一個一個の雪が天から落ちてきても、地上で見える形がすべて違うのは、一個一個の雪の結晶がたどってきた経歴が違うから、すなわち様々な温度や湿度の環境の違いによって形の違いが起こるということを示しています。それは、雪の結晶の形を見れば、その雪の切片がどういう環境を経てきたかが分かるという



ことになります。

江本会長は、透明な水であつても雪と同じように凍らせて、雪の結晶のような形が観察されるとすれば、水に含まれている情報が違えば出来てくる結晶の形も違うのではないか、考えました。

当時のIHMの研究員に、実験として、調べたい水を50枚位の小さいシャーレに水を一滴ずつ落として、それらを冷凍庫で一緒に凍らせ、低温室で顕微鏡で観察、写真撮影させました。1999年までの五年間で撮った水の結晶写真をまとめて写真集にしたのが、「水からの伝言」です。

※このあと、いろいろな水の結晶写真が紹介される。

世界や日本の大都市の水道水（あまり結晶が出来ない）や、山等の自然水（きれいな結晶が出来ると）、さらにきれいな音楽を聞かせる、あるいは「いるかの写真」の上での凍結、「ありがとう」や「愛感謝」の文字が書いた瓶に入れた水の凍結（↓それぞれきれいな結晶が出来る）、「ばかやろう」の文字書いた瓶に入れた水の凍結（↓結晶が出来ない）

「水からの伝言」の概要

- ・良い水は美しい結晶を作り、悪い水はまったく結晶を作らないことが示唆された。
- ・水は、音楽やイメージや言葉や、祈りなどによって、変化する可能性がある。
- ・水は、「愛感謝」の波動を最も好むようである。



江本会長は自分は科学者ではないし、「水からの伝言」は科学的な本ではないと明言しています。一つの考え方であり、アートやファンタジーとして、自分はこの本を世に出したのだと言っております。ですが、「水からの伝言」は世界的に広まって、水にはそういう可能性があるのでということ、一般の方々も広く理解し、考えてくれるようになりました。

ワシントン大学・生物工学科教授  
ジェラルド・ポラック博士の第四  
の水の相の発見

水が凍る時、液体の水は必ず「第四の水の相」を通じて氷になると、ポラック博士は言っています。

気体↓液体↓第四の水の相↓固体

水が溶ける時も同じで、第四の水の相を通じて、液体になります。第四の水の相の状態は液体で、特殊な性質をもった液体となります。ポラック博士は著書で、雲が出来るときや雨が水滴になって落ちるときなど自然現象も、第四の水の相の理解なしには説明できないと書いております。

水滴が水面に落ちるとき、一瞬にして融合しないで、数秒間水滴の形を保ちます。これは今まで表面張力で説明していましたが、数個の分子の表面張力の膜では説明できません。南米で水面を沈まないで、走って行けるトカゲがおりますが、これも数個の分子の表面張力では説明できません。

一円玉が水面に浮かぶのも、本当は表面張力では説明できないのです。少し離れた2つのピーカー

に入った水に、高電圧をかけると「水の橋」ができますが、これも第四の水の相が関係します。

液体の水の構造

- ・従来の「液体の水・観」
- ・水分子同士の水素結合が、1ピコ秒（10の12乗分の1秒）ごとに切れたり、繋がったりしているので、とても情報を記憶できると思えない。
- ・新しい「液体の水・観」

「第四の水の相」は、バルクの水と比べて、はるかに安定であり、情報を記憶、伝達できる可能性がある。

物の表面には2つのタイプがあります。

- ・親水性=Hydrophilic ↓水に濡れる性質
- ・疎水性=Hydrophobic ↓水をはじく性質

私達の皮膚など身体の中のシステムは親水性であり、テフロン鍋などは疎水性となります。

これ以降、私がお話しする内容はすべて、親水性の表面に限って、忘れてください。

「第四の水の相」(固体と液体の間)を調べる最初の実験動画を紹介

・親水性の表面の近傍には必ず「EZ Water」=「第四の水の相」が存在する

・細胞の中には沢山の親水性の分子や膜が存在するので、細胞の水はほとんどが「EZ Water」=「第四の水の相」であると考えられる。

2種類の水(液体)

・ Exclusion Zone Water

= EZ water (排除層の水)

= 第四の水の相

= 構造化された水

= 液晶状態の水

・ Bulk Water (バルクの水)

= 通常の液体の水

「第四の水の相」の物理化学的な性質

・「第四の水の相」の水は、物理的に「バルクの水」と異なっているのだろうか？  
以下の実験から、答えはいエスである。

\*紫外・可視光の吸収スペクトル  
— 構造の違いを見る

↓ 排除層には、バルクの水にはない、270nmの吸収ピークがある。

\* 赤外線吸収のイメージ解析

↓ 排除層は、バルクの水よりも、赤外線を吸収する。

\* 赤外線放射のイメージ解析

↓ 排除層は、バルクの水よりも、赤外線を放射しない。

\* MRI (核磁気共鳴画像法)

— 分子の自由度を調べる  
↓ 排除層では、分子の動きが、より制限されている。

\* 粘性 — 物性の違いを見る  
↓ 排除層の水は、より粘性が高い (ハチミツ状)。

\* 偏光顕微鏡による観察

— 分子の配向性を見る  
↓ 排除層の水は、規則正しく配向している。

「第四の水の相」の構造

酸素と水素で六角形の構造を形成する

第四の水の相は、

(1)  $H_2O_2$  であり、 $H_2O$  ではない。  
(2) マイナスの電荷を持っている。  
(中性ではない)。

・ H (水素) は +1 の電荷を持ち、  
O (酸素) は -2 の電荷を持っている。

・  $H_2O$  の電荷は

$2 \times (+1) + 1 \times (-2) = 0$  である。  
従って、 $H_2O$  は中性である(電荷を持たない)。

以上より排除層の水(第四の水の相)はマイナスの電気を帯び、

バルクの水はプラスの電気を帯びています。↓バルクの水のプラスの電荷は、ヒドロニウム・イオン (Hydronium ion) ( $H_3O^+$ ) によって運ばれる。

そうすると、排除層の水とバルクの水にそれぞれコードで繋ぐと電池になるかということ、答えはいエスです。

その場合水の電池は、どのような仕組みで充電されるのか？

・水の電池を充電するのは、外から入ってくる光である。

・必ずしも可視光(直接光)でなくても、赤外線(間接光)でもよい。

・光をすべて消して、真っ暗にしても、赤外線カメラでモノを見ることが出来る。

・すべてのモノは赤外線を発している。

・実際、「第四の水の相」を形成するためには、赤外線(間接光)

が最も有効であることが分かった。

コップ一杯の水の表面も0.1mmの厚さは「第四の水の相」となっており、赤外線を浴びれば厚くなる。

生物学でも、細胞内構造体や高分子物質の近傍は、0.1mmの厚さの「第四の水の相」となり、マイナ스에帯電しているが、バルクの水はプラスに帯電している。この電荷の分離のエネルギーを生物学的反応に利用することが出来る。

人間の細胞は、一番大きい卵子で0.2mmなので、すべての細胞内の水はほとんど「第四の水の相」と考えられます。

我々の毛細血管の太さは赤血球よりも細く赤血球はひしゃげながら毛細血管内を通り、また毛細血管の総延長は10万Kmあるそうです。それを考慮すると、心臓のポンプの作用だけで、必要なエネルギーをすべて供給することが出来るだろうか？ 光のエネルギーが、この血液の循環を助けている可能性はないのだろうか？

ポラック博士は、それに対する解答を「第四の水の相」に基づいて

示しています。親水性のチューブを水に沈めて観察すると、チューブの中の水が自動的に流れることを発見しました。ということとは、ポラック博士の説では、血液循環は心臓のポンプの作用だけでは無理であって、それに加えて、毛細血管の中の水が、第四の水の相の仕組みで、外から光のエネルギを受け取って、血液が自ら流れる、その両方の作用が相まって、初めて血液循環が成立するということです。(つづく)



#### 第四〇六回関西日本サイ 科学会研究集会報告

「命をつなぐ」——日本の  
太古の智慧が地球を救う——

講師 畑田 天真如師

(天真如教苑苑主)

とき 平成28年3月19日  
ところ 大阪科学技術センター  
畑田 天真如

(はただ・てんしんによ)

天真如教苑苑主。大正15年1月岡山市に生まれ、昭和17年安倍晴明公ゆかりの地阿倍山(鴨方町)に入植。京都鞍馬山にて修行、インド仏跡巡拝。京都醍醐寺にて伝法灌頂を受け阿闍梨となる。60年に道場焼失、神道の研鑽を始め63年より中医学を学ぶ。平成11年天社土御門神道本庁より陰陽大允(おんみょうたいいん)の位を授かる。



「自分で健康をつくる会」主宰。91歳を期に「いのちをつなぐ学びの会」を発足し、東京麹町般井セミナールームで毎月学びの会を行うなど精力的に活動。著書に「根本から治す生活健康法」(元就出版)「根元に還る健康法」(美健ガイド社)「命をつなぐ」(桃青社)など多数。

畑田講師は胎内記憶をもち、幼いときから「霊」と話すことができるといふほか、人体の欠陥がある場所、つまり病気の原因となる箇所が見えるという不思議な能力をもっておられます。そのため人との関係に悩み、さまざまな命がけの試練を受け臨死も経験されました。

\* \* \*

いかにして健康になるか、また私たち日本人はどう生きればよいのか、神霊との対話をおして学んでこられた智慧の結晶を話していただきました。

わたしは女の神様(倭姫命)に、「これから学びだよ」と告げられて胎内に宿ったという記憶があります。鞍馬では修行中、「人間を育てよ」とも。

孔子や孟子、モーゼ、キリストも日本で学んだことがわかっています。つまり日本の神道が元で、ここから始まっているのですね。不思議なことですが、観光客がだれもいないバチカンの中で、4代前のローマ法王が霊体で現れたことがありました。紫色の煙が消えるやパイプオルガンの演奏が響

き渡ったのです。それからしばらくして大勢の観光客と出遭いました。

言語も日本語が元ということがわかりました。竹内文書やホツマツタエにも書いていますが、言霊は「心のはたらき」を表現しています。鳥や動物にも分かるようです。「心のはたらき」は宗教ではありません。物言わぬ心のはたらきが見えたり、亡くなっていく人の心が見えるのも自然なことです。「古事記」は「フルコトブミ」、「コジツケ」とも称されますが、「心で解く」ことが求められます。最初はわからなくても、旧字体の原典を読むのも一案です。

言霊的に「アイウエオ」の解釈をしますと、

「イ」・・・いのち(生命)

「エ」・・・ちえ(智慧)

「オ」・・・学問

「ウ」・・・欲望

「ア」・・・感情

となります。

「言葉づかい」は「心づかい」と置き換えてもいいでしょう。いまの人たちは、右脳と左脳の使い分けが下手になっていて、とくに右脳を鍛えていません。

お米や野菜をつくってくれた人々の思いがこもる食事のあとに「ごちそうさま」といわないのも、「ありがとう」の気持ちがないからで、これでは世の中がぎすぎすしてきます。日本人は「神の子」。その在り方として、人におしえる立場にあります。子どもを大きくするのにも、理屈や、父母の都合ではこまります。「いけない」ことには、その理由を示してやりましょう。相手を思う心を育てることが大切です。「不足」の心は冷たく、思いやりを感じられませんが、しかし、心で話す言葉は通じます。

母とは早く死別しましたが、わたしの祖母は、日本人のやり方で、わたしを育てました。日本人は概ね、牛乳の分解酵素がないから飲めませんが、祖母は玄米と大豆のおもゆ、生きたカニ殻の粉などを食べさせました。また、わたしは生姜が大好きでよく食べていました。

解剖学的には重視されていませんが、血管や骨、筋肉にも薄い膜があります。大切なことでも、分からないことはいっぱいあります。

わたしには友達がいなかったけど、人には見えない分身のようなものがいて遊び相手になってくれました。見えないものが見えるとか、たとえ当たっても、「この家に泥棒が入るよ」とか本当のことを言えば疑うのが大人の世界です。

わたしの教苑は「からだを治す」道場で、宗教団体ではありません。日本人として「学びあつて」生活しています。スモン病で苦しむ人も完治しましたが、後に補償が貰えないと文句をいいました。交通事故で首が動かなくなつて入院した人が、退院して注射をやめたら一週間で治つたという人もいます。人の心は自由自在ですが、「運」は自分で選んでいるのです。

「知識」でかंगाがえた解き方が通用しないことは、けつして少なくありません。知識が進んでも、からだはポロポロになつていられるかもしれません。「生きているあいだは元氣」がいちばんですが、そのために手入れが必要ですよ。

礼儀、作法、感謝のころ……。知識の詰め込みだけでは欲望が肥大し、こころが貧乏になります。

たとえば、親の家を生かして使えば、住宅ローンもいらす余裕がでますが、国には最早お金がありません。年をとつてどうするか、深刻な問題です。

死ぬときは感謝して死にたいものですが、心の借金が重荷になります。借金を払えないから苦しむのです。「甘え」も自分がつくつたもの、だから自分で治せませう。「胸を張つて」「空気を入れ替える心遣い」で自分の人生を歩いてください。

死ねば「あの世」へ去るわけですが、だれもがすんなりと「あの世」に行けるわけではありません。「あの世」に通じるトンネルの中でも、いっしょに連れてつてくれと付き纏う「霊」がいます。肉体は去つても、霊体や幽体が存在しているのです。

自分の足で立ち、自分でかंगाがえて行動することです。そして「人の役に立つ」ことを心がけましよう。「霊」たちは身近にいて、ときには力を貸してくれることもあります。

手洗いにも「霊」がいます。「失礼します」「お世話になります」と

挨拶しましょう。

氏神様にも感謝しましょう。災難から身を守つてくれるなど、たとえ小社であっても、そのおはたきは小さくありません。

さて、日本人はこれからたいへんです。知識が進歩しても病氣はなくなりません。健康保険も崩壊するでしょう。自分で健康をつくらなければならぬのです。ではどうすればよいか。一例をあげておきましょう。

ふわふわのパンよりも米です。伝統食に戻りましょう。そして、よく噛むことです。

歩き方ですが、「かかとから親指で歩く」ことが大切。そして肛門を締めましよう。下駄や和式便所も見直したいですね。

細胞寿命は120歳。人生は「学び」です。正しい姿勢と筋力を身につけて、健康な人生を全うましよう。

☆

☆

※今回の講演はDVDに収録されています。お問い合わせは、電話0865・44・7470、天真如教苑へ。

当日の参加者は会員15名、非会員60名、計75名でした。

(関西日本サイ科学会副会長

和田 高幸)

#### 第四〇七回関西日本サイ科学会研究集会報告

#### 秘密NIPPONの超建国裏返史

講師 上森 三郎氏

とき 平成28年4月16日

ところ 大阪科学技術センター

上森三郎氏は1954年、熊本県芦北郡芦北町生まれ。建築業界歴30年で一級建築士。シックハウス(化学物質過敏症)の研究から、水の活性化こそが重要であることを見出し、流体の活性化装置『ネオガイア』『テラファイト』を開発し、日本、アメリカ特許取得。多数特許取得するなど発明家でもある。

現在は身体そのものに関心を寄せているが、隠された日本と世界の

真実を解明すべく、神社仏閣を参拝しながら、兵庫県植丘の里の山々を中心に探索中。「かごめかごめ」をつたえる会会長。著書に『世界文明の「起源は日本」だった』、『秘密NIPPONの超建国裏返史』(いずれもヒカルランド)がある。

ネオガイアジャパン(株)代表取締役  
(株)T・T・C・代表取締役  
(株)Stap salon 代表取締役

56歳7ヶ月のあの時まで、私は、ただただ一方的に神様に話しかけるだけで、神様が言葉を発してくれるとは想像もしていなかった。黙って空を眺めては雲の形や流れを楽しんだり、野山を吹き抜ける風に身をさらして心地よい思いをしたりして、神様を感じていた。私にとつての神様は、そんな寡黙な存在だった。

ところが、2010年8月11日、56歳7ヶ月のその日、私は初めてハッキリと神様の声を宗像大社で聞いた。

「よ来たのお」  
これが神様からの初めての言葉だった。そして、その時から、私は神様が私に語りかけてきてくれる声がだんだんわかるようになって

た。それは、しばしば直接的だったり、「そう言われている」感じがする」という状態だったり、また多くの場合には、人々の口を通して伝えられてきたりする。

その声の主は、時に左耳から聞こえるのは空海様のようにであったり、右耳から聞こえるのは天皇家の誰かのようにであったりもする。そうやって聞こえてくると、ほとんどの場合、言われるとおりに動かないと、居ても立ってもいられない心境に追いやられる。

まだ初期の頃のある時、私に契約を迫った神様との交渉の中で、白紙委任状にサインさせられるという事態まで起きて、それまでの、ごく普通の生活を一変しないとならなくなった。建築家としての仕事はもちろん、偶然に偶然が重なって出来上がった超自然的な器具ネオガイア・テラファイトを製造するにも販売するにも十分な時間を与えられることなく、神様の指示に、ただひたすら従うという生活に完全にかえられてしまった。

神社仏閣にはほぼ無縁の生活で長い間送ってきた私が、数え切れないほど次々と神社めぐりさせら

れたり、穴掘りさせられたり、山登りさせられたり、事務所にいれぱいいたで、テーブル上に大きな地図を広げて、真剣に、行ってきた場所や脳に響いてきた場所にポイントを打って、無数の線やら図形やらを描き続けて、一見、仕事らしい仕事もしなくなっていました。かつての私を知る人たちが皆、異口同音に「上森は頭がおかしくなりました。気がふれた」と言って、去って行ってしまったのも無理からぬこととわかっている。

こんなにまで私を使って、神様はいったい何をしていたのか? 契約を迫ってきた時、神様は必死の様子で「時間がない! 時間が無い!」と怒るように言われた。

初めは神様の指示が何の脈絡もないものと感じていたのだが、地図に引かれた線が十字架を示すものであったり、そのうち、きれいな正三角形や二等辺三角形が描かれて、図形の点と点の場所にそれぞれ大きな意味が見いだされてきたりして、これは、ただならぬことだとわかるようになった。

神様からの声もそのやり方も相変わらず続いている。しかし、神

様のほうでは本当に時間が限られているようで、2015年に入ってから、特に5月の連休あたりから事態は急速に進み出した。

5年間、神様と文字どおり会話することで、神様の全知全能ぶりもわかるようになった。私たち、三次元に肉体をもって生きている人間は、実は、無限の力をもって生きているのだが、真実を覆い隠されているために、自身を限定してしまっている。三次元の眼で見える事物しか見えていない。見える世界と見えない世界、この世とあの世、この両方の領域で私たちは生きているのだが、この事実を知らないでいる。また、もつと言えば、私たちは、過去、現在、未来に同時に生きている。それは、神様と一致した時、つまり、自我をなくした時、大変よく感じられるようになる。

もし、教えられ、思い込まされていた過去が、まったく違ったものであるとしたら、当然、現在の状況も、未来の予測も、違ったものになる。ほとんど教科書的な歴史の知識のない私が、それこそ神様から直接教えられた、歴史の真実を語ることで、その内容を誰

かが信じてくれるなら、そして、たったひとりでも勇気をもって行動を起こしてくれる人がいるなら、明らかに現在も未来も、想像外の世界を創り出せる。

最近、自分自身でも驚くくらい、神様はいろんなことを一気に、おそらく誰も知らないであろう事柄を、私に直接教えてくれている。とても信じたいような、奇想天外な話である。

たとえば：

モーセは、紀元前3674年10月17日 現在の鳥取県米子市生まれ。身長177センチ、血液B型。紀元前3287年12月28日 鳥根県出雲市で午前0時0分に亡くなる。享年387歳。

イエス・キリストは、紀元前3年8月19日 現在のキルギス生まれ。身長174センチ、血液B型、日本人と同色でやせ形。母はマリヤ、父はヨセフではない。亡くなって2日目に現在の兵庫県神河町(旧大河内町)の標高835メートルの陵墓に埋葬(土葬)された。卑弥呼は、西暦177年8月31日 現在の兵庫県香美町の庵月山生まれ。身長162センチ、血液

B型、体形は普通。248年11月17日入定、5日後の22日に死亡。享年71歳。イエス・キリストの命日を選んで入定した。

：といったような事柄を教えられるのである。「上森はますます頭がおかしくなった」と狂人扱いされるのも覚悟で、教えられたとおりに、私は語るだけだ。

生命の樹(カバラ)の図もますます明確に示され、日本の国造りの秘密が解けていく気配である。

この本は、『世界文明の「起源は日本」だった』、『イスラエルの「元つ国日本」にユダヤ人が戻ってくる』の続編としてまとめた著書なのだが、あまりにも不思議な世界が今も続いている。

地図上に十字架を描かされたり、描いてはその教えられた場所に行かされ、行かされてはまた地図上に図形を描かされたり、連続のなかで、鶴と亀や、龍(玄武)などの山を使った巨大な地上絵をグーグルマップから次々に発見したり、線を引いて、生命の樹の図形を見つけたりした。

これらの地上絵や図形から、太古の時代より生命の樹の原型が日本でスタートし、ユダヤ教やキリ

スト教や仏教にも生命の樹の思想が取り込まれていったのではないだろうか、私は考える。

そして神様は、旧約聖書、新約聖書の中心人物であるモーセ、イエス・キリストが日本という国の礎を築き、彼らのDNAを引き継ぐ女王卑弥呼が彼らの教えを踏襲しようとしたのだということ、世界の本当の聖地が、実は日本にあるのだということ、数々の図形をもって、おもてに示すようにと私に告げている。

その聖地こそ邪馬台国の女王卑弥呼が住んだ都であった。神様は、長きにわたって繰り返されてきた邪馬台国論争にもピリオドを打って、世界の平和のために、選ばれし人のDNAをより濃く受け継いだ人たちの目覚めを待ち望んでおられる。

☆

☆

当日の参加者は会員11名、非会員49名、計60名であった。

(関西日本サイ科学会会長

河野 明夫)

に写されている。また三日月型の小オーブが写されている(理由は別報予定)。その他は上述と同一である。

写真4~5は、上述とほぼ同一条件で撮影されている。写真4には、右下と左下に照明光の手ぶれ光跡がある。大小多数の様々なオーブがランダムに写されている。写真4には、右側に大きなプラズモイドが撮されており、左上に大きな非対称干渉縞模様状マンダラが1個、右上縁に薄土色の厚みのある大オーブが1個、左側に強い乳白色発光小オーブが1個撮されている。

#### 4. 検討ならびに考察

撮影されたオーブ(たまゆら)の出現の状況や、現れた位置等から判断すると、次の性質がある様子である。(1)撮されたオーブの位置は、非局所的であり、ランダムに広がっている。それぞれは独立、不確定(予め、決められない)であり、撮影の都度異なっている(揺らいでいる)。これらは、素粒子の持つ性質と類似している、または同一である、といえよう。つまり、オーブの出現には素粒子の確率的な性質が出ており、巨視的な物質としての再現性や因果律は成立しにくい。これから考えると、オーブは大気イオンや意識的な素粒子群を電磁気学的(クーロン力による)または弱い水素結合(陽イオン)に依って結合されて、巨視的な物質として存在している様に思える。

それと同時に、オーブは「お願いすると現れる」、「意識に反応する」など、意識的な面も有る様子である。残念ではあるが、実験条件とし

ての意識や変性意識状態(ASC)の測定は、現在は、困難である。撮影者個人の感覚情報に頼らざるをえない。沢山の実験結果の集積として、主張するにとどめたい。つまり、体外の空間に現れる(撮された)オーブ(たまゆら)と撮影者の意識とは、直接的な、情報交換をしている、と判断している。以上、出現・撮影されるオーブ「たまゆら」は、巨視的・微視的(素粒子的)な性質と、物質的・意識的な面を兼ね備えている様子である。

これの持つ意味合いは何かというと、遠い昔からの民話や伝承に「きつね火」、「火の球」、「おぼけ」、「幽霊」、などがある。それらはオカルトで、人間生活には用の無いものであり、無駄は排除すべきである、と近代科学は判断してきたらしい。しかし、それらは、ことによると、低レベルの「オーブ(たまゆら)」を意味しているのかも知れない。つまり、現在の実測・研究の段階で出現してくる「オーブ(たまゆら)」は低レベル(低周波数)の光子集合体群であり、実際には、より高レベル(高周波数)の、未知のオーブ(たまゆら)が存在するであろう、と推定できる。今後の多くの人達の研究と努力により、より高度の「たまゆら」、たとえば、「ご先祖霊(様)、SG」等の投影が出現することが期待されている。これらと情報交換が出来れば、誠に幸いであり、有難い。「たまゆら」の研究を介して、新しい精神・科学の研究が開始されて、人々を本当の幸せに導く事に成るのかもしれない、と考えている。

(紙数の都合により写真は省略させていただきます)

◎ サトルエネルギー学会  
2016年秋大会のお知らせ  
(日本サイ科学会協賛)

大会テーマ

21世紀の歩き方、意識、この未知なるもの、意識とは何か?

日時…平成28年10月8日(土)

開場…9時45分 開演10時

閉演…17時(懇親会17時~19時)

会場…学士会館

東京都千代田区神田錦町3・28

料金…日本サイ科学会会員

前売り 四千元

当日 五千元

懇親会参加費 四千元程度

※内容等詳細はサトルエネルギー学会の公式サイトをご覧ください。

※申込みお問合せは

サトルエネルギー学会相模原分室

電話 042・748・8240

E-mail office@subtle-eng.com

URL <http://www.subtle-eng.com/>

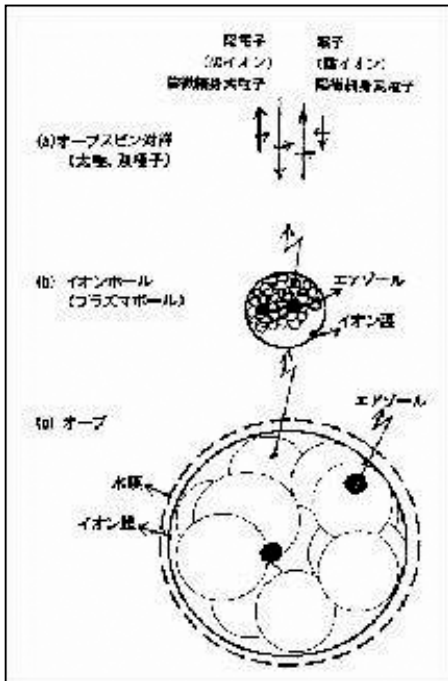


図1 オーブ(たまゆら)のモデル(仮定)

## 2-2) 判明・推定した意識的な面

(1) 社寺、仏閣等の聖地やパワースポット等の場所。お祭りの行事など。人々が気に掛けている特定の場所、ならびに特定の行事の際に、写り易い。

(2) 何時も写るとは限らない。一般に、再現性に乏しい。Aさんのカメラには写るが、同一場面で同時に写しているBさんのカメラには写らない(個人の意識に関係する)。しかも、Aさんの場合でも、簡単には、写らない場合がある。「写る」に必要な変性意識状態(ASC)はコントロールが難しい、つまり、「気まぐれ」である。

(3) 雑念を取り去り、無心で、熱心に撮影すると、写り易い。つまり変性意識状態(ASC)に近づく必要があり、意識的努力はむしろ、出現抑制に働く傾向がある。

(4) 無心に、熱心に、お願いすると写り易い、ASCに近い意識状態に反応・応答する。つまり、これらの条件が揃うと、オーブとの間の情報交換が可能になる。

(5) 瞑想法などの訓練を経て、意識的に、脳波(EEG)をデルター波などの低周波数域にまで下げる事が出来る人の場合には、写り易くなる傾

向がある。

(6) オーブが写る時の撮影者の変性意識状態(ASC)と、体外に在るオーブ(たまゆら)は、同調(共鳴、共振)していると判断・推定している。

## 3. 測定結果の数例

新しい試みとして、カメラの手ぶれ写真像を介してオーブの性質・特徴を調べる事にする。使用したカメラはNICON E-2200、フラッシュ、オート。写真1~3は2014年3月5日(水)、小雨、朝方の5:13~5:20、福島市遠瀬戸、実験室前。写真4~5は2014年3月20日(木)、小雨、の夕方7:15~7:25、同実験室前。写真1~5において、オーブ(たまゆら)は乳白色の小円状に写されているが、それぞれの位置や大きさ、円内模様等は不確定であり、様々に分散している(素粒子の性質)。この理由として、撮影前は、図1のPSI-spin群の構成要素(大気イオン、電子、プラナの群)が、広い空間に、分散した波の重ね合せの状態、ランダムに揺らいていたのであろう、と判断できる。

写真1(No.1707)をみる。そこに存在している照明光(既知の光、街灯、窓の光)が、カメラの手ぶれ像の軌跡として、ライティング・ライツ(a)を画いている。沢山のオーブ(未知)は、フラッシュ光による反射光で小円形像(b)として撮られている。中央と右側にオーブの乳白色発光前幕シンクロ像(c)がある。これらの時間経過をみると、(a)はシャッターの開閉の全時間、(b)はシャッター開と前幕シンクロ・シャッターとフラッシュ時、(c)はシャッター開と前幕シンクロ・シャッターとフラッシュ時、シャッター閉に撮された、と判断出来る。つまり、手ぶれテストによってオーブの出現の存在する時間が判る。

写真2(No.1710)は、手ぶれ時間を短くした場合である。右下3個所にライティング・ライツ(a)。その上には、街灯光(Haloが直線的で長い)がある。大小のオーブが撮されているが、左側に、薄い(弱い)光ではあるが、唐鏡状の内部模様を持つ大オーブが撮されている。オーブの存在時間は、写真1とほぼ同一であろう。写真3には、プラズモイドと放電の光と思われる幕像が右側



# オーブ出現の素粒子的ならびに変性意識的な状況

佐々木 茂美

## 1. はしがき

縦、横、高さで表される3次元の空間に時間を加えた4次元の巨視的・科学的な世界では、周知のように、因果律や再現性が成立している。この巨視的な物質世界を支える基盤は微視的な量子(素粒子)であるが、個々の素粒子の因果律や再現性は成立しにくく、また見えにくい。人は肉体と精神(魂)とから構成されており、4次元の時間、空間世界で毎日の生活を営んでいることになる。今回、検討の対象にした巨視的な物質としてのオーブ(たまゆら)は、別報でも述べた様に、不思議な事に素粒子類似の性質を持って出現してくる。また同時に、意識的な面を兼ね備えている様子である。これらの物質的、微視的、意識的な性質を合せ持つような、こんな不思議な物質は、今までに、経験したことも無く、聞いた事もない。そこで今回は、これらを確認する為に、主として、オーブ(たまゆら)が示す巨視・微視的な性質を検討し、同時に、そこには意識的な面が加算されている、と考えられる事等について考察し、報告する事にした。

## 2. 撮影・検討結果

多くの撮影・実験結果の結論として、次記がえられた。

### 2-1) 判明・推定した物質的な面

(1) 写真撮影の記憶媒体がフィルムから半導体(CCD)に移行するに伴って、乳白色の小円形状のオーブが、ノイズとして撮影画面上に写り込んできた。しかし、その位置や種類、大きさ等はランダムであり、また非局所的である(広く、拡散している)。

(2) 空気成分が電離していて、しかも湿度が高いような薄暗い空間に向けて、近赤外線領域が撮影可能なデジタル・カメラを用いて、フラッシュ撮影するとオーブが撮影される(肉眼では見えにくい)。

(3) 空気中にある近赤外線量(活性化エネルギー、約1.38eV)が或値に達した時(フラッシュ光を加算した蓄積値)に写りやすい(繰返し撮影すると写るようになる)。

(4) 撮影条件として、ズームによる望遠レンズ状態で撮影すると、真オーブが写りやすい。一般に、デジカメは焦点距離が短いので、偽オーブが写りやすい。

(5) 写されたオーブ(たまゆら)の小円形の輪郭はほぼ鮮明であり、円の周辺では、外側に向けて放射線状の短かいヘイローを伴っている(写真2、5参照)。またオーブの内部には非対称の干渉縞状模様やマンダラ状模様(表情)を伴っている(写真2、5参照)。

(6) 雨の降り始めに写り易い。つまり水との親和性が高い{電離した水素イオン(H)、陰イオン(OH)}。つまり大気陰・陽イオン・ボール形成に関係している(図1参照)。

(7) オーブは大気陽イオンと大気陰イオンの組み合わせを単位にして、これの集合群から形成されており(巴型の回転・スピンを伴う)、核(エアゾール等)を内蔵している。これに、

(8) 意識要素としての素粒子群(PSI-spin群)が加算されたもの(カオス性の揺らぎを持つ)を「たまゆら」と呼んでいる。

(9) 巨視的な大径オーブ(たまゆら)は、微視的な小径オーブ(たまゆら)の集合体(PSI-spin群)であり、中にプラナ(微細身素粒子、サイ、気)の混入を仮定している。つまり中実・集合体状である(図1参照)。

多数のオーブ像を検討・考察した結果として、巨視的なオーブ(たまゆら)が、素粒子的な性質を持つのは、素粒子群(PSI-pair群)間の結合が弱いために、出現時に、構成要素としての素粒子群(PSI-pair群)の性質が表れる事に起因するのであろう、と判断している。

ろが、平熱が元どおり36度5分くらいに戻ったのです。これはそれだけ生命力が戻ったと思い、いつも貼り続けることにしました。背中に貼るのは自分では無理と思うでしょうがそれは案外簡単に出来ます。まえに述べたように探触子の6ミリの真鍮棒の先端面は凹みがあります。メーターが強く振れたところで強めに先端を押し付けると一時的に凹み痕が付きます。それを人差し指で感じ取ります。予め、爪の先端に米粒を貼り付けたテープの端を貼っておきます。米粒は爪の先端の先にあるわけです。その指先を動かして凹み痕を感じたところより米粒のあるあたりまで移動して止め、隣の中指でテープを押して貼るのです。これで、身体中殆どの場所に自分で貼れます。これは腕のいい運動にもなります。テープはシアテープというニチバン製品です。中谷先生は布地の厚めの絆創膏を奨めておられますが、私は亜鉛華などの収斂剤の入っていないシアテープの方が、かゆみが出やすく良く効く気がします。私の感じではもう少し粘着剤が強めだと老人の肌には良いと思います。

春は花粉過敏症の人は半病人です。これには志室という背中の左右のツボが効きます。あばら骨の下端の高さにあり両手を腰にあてたとき親指の当たる場所です。80パーセント楽になったと言う人もいますから花粉症の人は試してください。正確に測らなくても効きます。

勿論米ツブ療法も万能ではありません。前立腺の肥大に気付かなかったので、2005年それが原因で腎不全になって入院してしまいました。当初、お医者さんに人工透析は免れませんよと宣告されましたが一ヶ月の入院中どんどん良くなり人工透析にならずに済みました。入院中も米粒を貼っていたので普通の人と違っていたと信じています。腎臓の力を表すクレアチニン指数は、入院当初の5.4から一ヶ月後退院時には3.8まで下がり1年後には2.0と、2年後には1.9と固まってきました。余談ですがキャベツを朝食で沢山食べることにしたらさらに良くなり始め1.4まで下がりました。因みに1.1が私の健康体のときの値です。しかし、年齢は争われ

ず心エに常時貼っていないと心臓が不安で、心電図も悪くでます。心エ付近に密集して沢山のツボが現れるので全部貼り、時々はがしてはまた貼るのを日課にしています。

ムズムズ足症候群という病気があります。確か、75歳くらいからと記憶しますが、それに罹り足を間欠的に動かさないでいられなく症状が始まり、夜寝るときに起こると眠れず大変困ることになりました。米粒が効かぬかと、ツボを探しましたがあまり効かず足裏に貼るいわゆる樹液シートを知って何とか過ごしたことがありました。しかし、米ツブ療法と違って即効性は無いので、ツボを探し、結局あばら骨下端付近と、太ももの左右側部に出るツボがよく効くことが分かりました。

なお、これは米ツブ療法とは違いますが、虫歯の予防法です。私は92歳の現在自分の歯が24本あります。歯医者さんの話では非常に珍しいそうです。これには、理由があります。私は歯磨き粉を全く使わずいつも、食塩で、しかも、硬い歯ブラシHというのを使っています。むし歯が始まるのは歯垢からだそうです。食塩は歯磨き粉と違って溶けるので歯垢全部を消毒しその原因を抑えます。そして、必ず歯茎をよく摩擦して磨きます。これで、歯への栄養が行き届くと勝手に考えています。それでも、歯が痛みだしたときは、歯茎の根元の方をこのブラシで血が少し出るまで何日か磨きます。一寸、痛いですが、歯の痛みは無くなり虫歯への進行は止まります。先日も上の奥歯が痛み始めレントゲン撮影でもむし歯の進行が始まっていましたが、それをしたお蔭で一か月くらいで全く治りました。しかし、この荒っぽい治療法は家族に話しても、だれも実行しません。歯間ブラシもいつも使っています。

確か、60歳ごろから食事を2食にしました。これは、一寸つらかった記憶がありますが、慣れてしまえば平気になります。最近は一日一食を奨める医者もあります。多くの病気は食べ過ぎだそうです。歳をとったら入浴は出来るだけ減らすことも大切だと思います。夏バテには梅干しを、1、2個をお茶で食べると元気がでます。

きりできて、ツボのマークになります。プラスとマイナスを逆にしない方が良いでしょう。

昔、宿場の主人は足の三里のツボにお灸の痕がない老人は泊めないと何かで読んだ記憶があったので、自分は先ず三里にいつも貼るようになりました。丁度そのころ、会社の工場長の鈴木氏が、肘が痛くてレントゲンを撮ったら軟骨が磨耗して骨同士がさわるのが原因だと云われたという問題が起きました。米ツブ療法を試すことになり確かツボの曲池かそのあたりを押すと痛いのでそこに貼ってみました。貼って2、3日するとその場所がかぶれて水みたいなものが出るようになり、貼っても、貼っても、一ヶ月くらい水が出続きました。ところが痛みがどんどん軽くなりレントゲンを撮ったら軟骨が再生していたのです。それから、鈴木氏はすっかり米粒のファンになりました。普通、絆創膏をはって痒くなり、カブレたりするとそれで、皆止めてしまうものです。しかし、それを我慢して続け、水が出始めると効果は絶大で根本的に良くなるのです。

この事実は自分でも何度も確かめ私の家族はみな信じています。しかし、中谷先生の(米ツブ療法)の本には明瞭に書いてはありません。それは、米粒を貼れば針やお灸のように効くことに気付かれて間もなく出された本だからでしょう。残念なことに、中谷先生はこの本を出版されたあと早く亡くなられたようです。

まえに述べたように私は肝炎にかかったことがあるのでお酒は殆ど飲めません。それで、肝臓に効くツボにもよく貼って来たのですが、それほど効果は出ませんでした。それで、肝臓のことは殆ど諦めていました。30年ほど前のことです。長年やってきたヴィオラというブランドの靴クリームを工場を閉鎖することになったので、工場の実験室にあった水晶の研究の測定器を何台も一人で階下に下ろす仕事を一度にしまいました。ところが、翌日から右の膝が痛くなってしまいました。膝のまわりが出るツボに米粒を貼って何とか動いていましたが、お得意さんが教えてくれた整体治療院にいつ診てもらったところ、半月板の軟骨が痛んでいるのでそう簡単には治りませんよと言われ、遠方

まで通うのは無理なので、米ツブ療法を気長にやってみることにしました。

それに自分で作った良導絡メーターで膝の付近に出る場所に貼りました。たしか、1、2ヶ月でかなり軽くなりましたが、急な坂を下るときにどうも膝に自信がないというか、不安が残りました。それから、メーターで探す範囲を広げ膝の下の方によく出るところにも貼るようになりました。ところが、そこが痒くなり始め少し臭い水が出始めたのです。足首から10センチくらい上まで手のひらのひろさ一面に経絡とは関係ないメーターが振れるツボが沢山出て、貼り続けるうち全体がケロイドみたいな状態になってしまい、たしかその状態が一ヶ月くらい続きました。そして、膝の痛みは全快し急な坂を下るときも全く不安を感じなくなりました。久し振りにゴルフに行ったらよい成績だったことを覚えています。足がしっかりしたからです。人は足の方から死んでゆくと何かで読んだ記憶がありますが、膝が弱くなるのは体の下の足の方に腎臓や肝臓で処理しきれない老廃物が溜まるのが原因だと思います。それが一部にせよ皮膚から出てしまったので足が若返ったのです。

それからというものは、足のツボを積極的に探し求め貼るように心がけて来ました。貼ったあとその場所を爪で押して時々積極的に刺激を与えることも痒みが誘発され良い効果があります。皮膚の位置や乾燥状態によって皮膚の抵抗レベルは変わるので、その場所や時々に応じはつきりツボが分かるようにトランジスターの2次曲線特性を利用したメーターを作りました。メーターで調べ、伝導抵抗にハッキリ差が出る場所を探しそこに貼り、痒いところが出るのが楽しみになりました。右あばらに出る反応点に貼ったら肝臓も若い頃より良くなったようでビールを飲んで頭が痛くなるようなことは無くなりました。

この療法の効果で驚いたのは平熱が上がったことです。たしか、70歳近くになって体温(平熱)が35℃台になってしまったのに気付きました。背骨の両側の心ユ、肝ユ、腎ユなどのツボがメーターで調べるとハッキリでるのですが、ここにすべて貼ってみることにしました。とこ



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行

電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

公式サイト <http://psi-science.sakura.ne.jp> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

## 米ツブ療法と健康法

日本サイ科学会顧問 名誉会員 品川 次郎

もう40年以上前のことですが、テレビのアフタヌーンショーで米粒をお灸のツボに貼る治療法を見ました。この話をされていたのは大阪医科大学の中谷義雄博士で、京都大学で良導絡という治療体系を確立され博士号を取られた方でした。これは面白い、お灸や針と違って熱くもなく痛くもない。弱い刺激を持続的に与えるだけ、これで効けばこんな良いことはないと思いました。昭文社から米ツブ療法という本も出しておられたので早速買い求め、自分の体で確かめることにしました。

私は、23歳で盲腸炎の手遅れから腹膜炎になってしまいました。まだ、ペニシリンが入手困難の時代でしたが幸い手に入り、それが劇的に効いて一命を取り止めることができました。そのうえ、30歳位で流行性肝炎にもかかったので虚弱体質になってしまったのです。それで、健康法にはいつもアンテナを張っていたわけです。それから、四十年以上曲がりなりに健康で過ごさせてこられたのは、色々な健康法をしてきましたが、この米粒の導絡治療は非常に優れたものと確信しています。

こんなに良く効いてお金の掛からない治療法はありません。90歳を過ぎた今、流石に腰が痛くなって来ましたが米ツブ療法が頼りです。しかし、腰痛は九州熊本の速治膏という膏薬も交代に使っています。米ツブ療法は永年続けてきたので、中谷先生も当時気付かれなかった大切な治療のコツも発見したのです。しかし、他人に米粒を貼って効くと云ってもバカにして中々信じません。それで一文を書いてみることにしたのです。

中谷先生の良導絡治療法とは読んで字の如く、電気が流れやすい皮膚の特異点と東洋医学の経絡との関係を科学的に解析統合し体系化されたものです。何千年もの昔から人類が知っていた経絡というツボは皮膚の電気の良導点と殆ど一致していたということは驚くべきことだと思います。先日何かで読んだ記事で氷河の下端から現れ出てきた何千年も昔の人体(アイスマン)に入れ墨でツボのマークがしてあったと書いてありました。経絡の名称は現在では世界保健機関WHOでも認知されているそうです。

さて、貼るツボの場所ですが、五十肩みたいな痛いときは、押してみてもあそこだなと思う場所もそこに貼っても良く効くそうです。しかし、私は電気で測りたいので、先ず簡単なものをつくりました。250マイクロアンペア程度の安いメーターと9ボルトの電池と35キロオームの抵抗をシリーズにつなぎプラス側を長さ10センチ位の直径15ミリ程度のアルミパイプ、マイナス側を長さ5、6センチ径6ミリ真鍮棒にテスターの試験棒の先端を30度くらい曲げてハンダ付けをして探触子としました。中谷先生は12ボルトでやっておられましたが9ボルトでも使えます。プラスのアルミパイプの方を片手で握ります。探触子の真鍮棒の腹を皮膚にあてて直角方向に移動しメーターが振れるところで止め、そのまま、棒の方向に移動して振れがなくなった所で棒を立てその先端で振れの出る所を決めます。つまり、面で探し、次に、線上でさがすわけです。6ミリ径の棒の先端に旋盤でセンタードリルで凹みをつけておくと、ツボが分かったとき皮膚に強めに押し付けると凹んだ痕がはっ